

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年6月30日

【評価実施概要】

事業所番号	4770700179
法人名	医療法人上善会
事業所名	グループホーム 星のふる里
所在地	沖縄県石垣市新川2105番地 (電 話) 0980-88-8000
評価機関名	沖縄県社会福祉協議会
所在地	沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1
訪問調査日	平成20年6月26日

【情報提供票より】(H20年4月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15 年 5 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	7 人 常勤 7 人、非常勤 人、常勤換算 7 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費6,000 円
敷 金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 円 昼食 円	夕食 円 おやつ 円	
	または1日当たり	800 円	

(4) 利用者の概要(4月25日現在)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護1	名	要介護2 2 名	
要介護3	6 名	要介護4 1 名	
要介護5	名	要支援2 名	
年齢	平均 80 歳	最低 59 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	かりゆし病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、市街地より北西方約2.5^{km}離れた丘陵地に設置されている。隣接して、母体法人の経営する「かりゆし病院」や、「老健施設」、「通所介護施設」等があり、ホームの居間からは、さとうきび畑を挟んで、近隣の住宅や、対岸の島々を羨望できる。ホーム内は明るく、落ち着いた雰囲気、ゆったりとサービスが提供されている。利用者本位の姿勢は管理者を中心に職員にいたるまで浸透していることがうかがえる。今後ますます利用者本位のケアに期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の課題の取り組みについては、運営者、管理者、職員が参加し、課題解決に取り組み検討され、ホーム入り口の案内版の設置や、幹線道路沿いにホームの看板等が設置され、地域の人達への周知をはかっている。また、近隣の団地自治会等にホームの広報紙等を配り、幅広く取り組んでいる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員に内容を周知してもらう目的で、それぞれに自己評価を実施し改善に向けて取り組んでいるが、今回は管理者を中心に内容がまとめられている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に1回の割合で開催し積極的に関わり込み、会議内容は事業所からの報告が主で意見や要望は出にくい、これからの取り組みについて前向きにとらえている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族への報告は来訪時に行っているが、来訪時を待つまでもなく情報の提供は、随時に電話で報告する事で家族が安心するよう心がけている。なお、相談、苦情は管理者が全面的に対応し問題解決にあたり、経過記録や、解決に至る対応等を記録し職員に供覧し全員で共有している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 近隣の自治会に積極的に参加し、ホームの広報紙や、行事案内等を配り、地域の行事にも、利用者や職員数名で参加し、地域との緊密な連携をはかっている。

2. 調査報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員と共に地域密着型サービスの意義を確認し、利用者への生活支援、地域との関わりを理念の柱に置き制定している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念や重要事項については、玄関や事務所に掲示され来訪される方々にもわかるようにしており、職員のミーティングを通して理念に添ったサービスが提供されているかの確認を行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者は地域の自治会に加入しており、役員会等がある場合にはホームのパンフレットを配り紹介をしている。また、自治会の行事やお祭りには、利用者や職員もいっしょに参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員に内容を周知してもらう目的で全員で自己評価を行い、サービスの質の向上に務めている。前回の外部評価については全員でミーティングをし、課題について検討し改善をはかった。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議は、2ヶ月に1回の割合で開催、メンバーは利用者、家族、地域包括センター長、民生委員、管理者で構成され、サービスの報告、助言を受けるなどすべて会議録に記録されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との関わりは、書類の提出、受け取りのみで少ない。事業所の運営の現状が、上手く伝えられていない。	○	事業所から積極的に働きかけをし、推進会議以外にも助言を仰ぐなど、サービスの向上に取り込んでもらいたい
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回の割で「星のふる里たより」を発行、行事予定等を家族にお知らせしている。来訪の少ない家族には電話等で状況報告等を行っている。金銭管理は1名で、身の回り品の補充程度で家族の来訪時に報告している。日常品については家族が行っている。職員の異動についてはこの1年で1人のみで異動は少ない。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等からの相談や苦情は管理者が全面に対応し、問題解決に当たっている。相談、苦情の内容や解決に至る対応について記録し、職員に供覧し全員で共有している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1年間で1人の異動があったが、補充は速やかに行われ、利用者への影響が出ないようケアに関しては、経験者とペア体制を組ますなどの配慮がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は法人全体での研修会に参加し、職員への報告も行われ内容の周知は図られているが、他の職員は時間の確保が出来ず、研修の機会が得られていない。	○	職員の資質の向上をはかり、利用者サービスの向上と改善のため、職員に研修の機会を与え、職員の意識向上に努めていただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	1事業所のみ管理者どうしが連絡し合い、情報交換をしているが、職員間の交流会、勉強会等がなされていない。	○	同業者間の連絡会議を積極的に開催し、同業者どうしの地域の連携をはかり、利用者サービスの向上に繋げてほしい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前見学等、家族や本人の状況を勘案しデイサービスを活用するなど、本人や家族が安心し納得した状況で受け入れを調整している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と喜怒哀楽をともに過ごし、生活の技や地域の昔ながらの生活文化等を教えてもらったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン更新時に出来るだけ本人の希望や、意向を聞き取りしているが、なかなか確認が取れないときがあり、そのときには家族や職員を含め「その人らしさ」の支援を前提に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らすよう本人や家族の要望を聴き、課題となる事はスタッフ全員で話し合い、介護計画に活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3ヶ月ごとに見直しを行っているが、職員の意見や、利用者の状態変化や、家族・本人の要望におおじて現状に即し随時見直しをおこなっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域住民や利用者の要望により、事業所の多機能性を活かし、現在2人のショートステイサービスを受け入れている。デイサービスについては、現在石垣市と調整中である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は隣接する法人母体病院の医師がほとんどで、受診時には職員も同行し適切な健康管理が行われるよう医師からアドバイスをうけている。他の病院受診については家族の理解を得、家族が同行し受診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う意思確認等、事業所が対応し得るケアについて説明を行い、終末に対する対応指針を定め、家族の気持ちの変化や本人の思いに注意を払い、支援に繋げる体制が不十分である。	○	重度化や、終末期に向け母体病院にすべてを委ねるのではなく出来るだけ早い段階から、本人や、家族ならびに医師(かかりつけ医)との調整を行い、職員間での共有をしてもらいたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入浴や排泄時には本人の要望等を聴き、異性での対応も行っているが、ミーティングや申し送りの際に支援の方法に問題がある場合には、検討し改善を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活の流れに添って、1人ひとりの体調、その時の気持ちを確かめながら、柔軟に対応している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備として野菜のつくろいや、お膳並べをお願いしている。また、食後の後かたづけやお膳ふき等さりげなく支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間や回数については、とくに制限はしていないが一人ひとりの希望やタイミングに合わせて支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や後かたづけのできる方にはお手伝いをしてもらっている。ギターを弾ける方や、踊りの上手い方がおり、レクリエーションの時間には、大いに活躍している。終了時にはみんなで感謝の拍手を送り励ましている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気、本人の気分や希望におおじて、季節を肌で感じてもらい、心身の活性につながるよう日常的に散歩、買い物あるいはドライブ等にでかけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外出しそうな様子を察知したら、止めるのではなく、さりげなく声をかけたり一緒にドライブに誘い、安全面に配慮し自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理者は設置され、毎年2回母体法人の老健施設で消火器による消火訓練を実施しているが、ホームにおける防火計画及び訓練等が実施されていない。	○	早急に防火計画と避難訓練を実施されたい。なお、実施訓練のない時期は、机上訓練により、職員の危機管理の意識の高揚に努めていただきたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎日チェック表に記録され、水分摂取状況も把握され、特に管理が必要な場合には職員間でミーティングをするなど、情報を共有し支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、思い思いの人数でゆったりとくつろげる談話室、畳の間、ソファなどが配置され、利用者はそれぞれの場所で安心してのんびりと過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所で設置した家具等が各居室にあり、利用者各人の写真や作品等が飾られているが、全体的に居室としての個々の雰囲気は感じられない。	○	本人の持ち物が少ない、家族の協力が得られない場合でも、本人の意向を確認しながら、その人らしく居心地のよい居室づくりに取り組んでほしい。